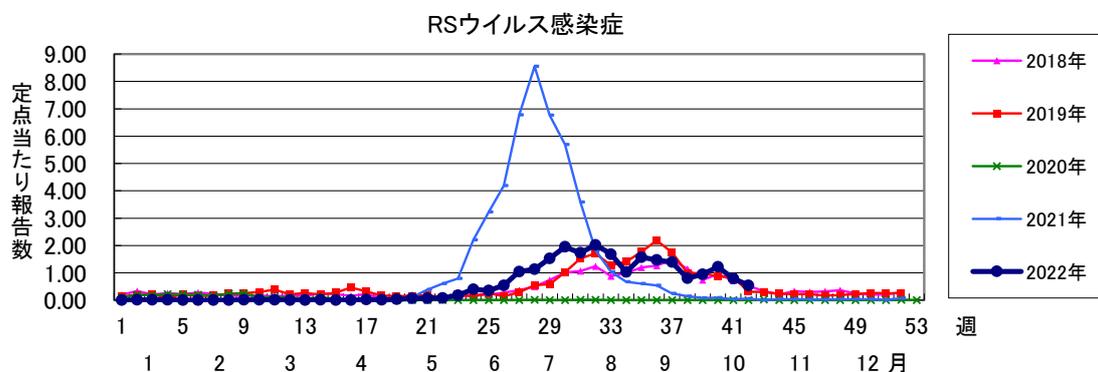


千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ投与について 2022年～2023年シーズン（第4報）

日本小児科学会は、2019年4月に、最新のエビデンスと、現在の医療状況を反映したコンセンサスに基づく、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」を公表した。ガイドラインと千葉県内のRSウイルス感染症流行状況を考慮して、千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループは、2022～2023年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ投与について以下を提案する。

1. 2022年41週時点において、全国では定点当たり報告数が前週比で減少（1.12→0.97）し、近隣都県（東京、埼玉、神奈川）においても減少傾向となっている。しかしながら、一部上昇傾向を示している地域もあり、今後の発生動向を引き続き注視していく必要がある。（<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>）。
2. 千葉県内においては、定点当たり報告数は、2週連続で減少している（1.22→0.79→0.54）。流行曲線は2018-2019年の状況と似てきており、2018-2019年ではこの後緩やかに減少しており（下図参照）、全体として流行の終息が見込まれる。
3. しかしながら、県内各地域において、2022年41週報告時点で16保健所管内中13保健所管内から患者報告があり、依然として県内広範囲での発生が見られており、また発生規模も地域差が認められている。
4. 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回を目安に投与することを本ワーキンググループは提案している。上記の流行状況から2022年～2023年シーズンにおいて、2022年6月から投与を開始した場合、2022年12月を今シーズンの投与終了の目安とする。
5. なお、2022年9月以降に出生した適応児に関しては、地域の流行状況や児の感染重症化リスクを鑑みて、2022年12月に投与を終了せず、児の病状や養育環境などを考慮し、流行の終息が確認できるまで7回を目安に投与を継続しても良い。また、今後の流行状況により、終息に向かわない場合は7回を超える投与を検討する。



2022年10月31日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループ

石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦 戸石悟司
西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直